

松井文庫 一紙文書
積文および目録調査

中間報告書
第2号

平成23年3月31日
熊本大学附属図書館
古文書勉強会

1. 松井文庫一紙文書 釈文および目録調査とは

熊本大学附属図書館所蔵の貴重資料である松井文庫* のなかの「一紙文書」は一枚ものの文書群で、書状や証文など様々なものを含む史料である。これまで約4300点は文書名と差出人等を書いた簡易目録が作成されていたが、本格的な目録は作成されていなかった。そこで、附属図書館では平成17年度から目録調査を開始、作業は図書館職員を中心とする古文書勉強会が担当することとなった。

平成17年度から平成20年度までの調査については、平成21年3月に『松井文庫一紙文書釈文および目録調査 中間報告書 第1号』として報告しており、今回はそれ以降の平成21年度から22年度まで2年間の報告書である。

* 松井文庫： 出典-図書館HP

八代市の松井明之氏旧蔵の近世藩政史料及び典籍類。

細川家の城代家老として豊後統治時代から明治初年までの松井家史料は、細川家の「北岡文庫」と相俟って肥後藩政史研究上貴重なものであり、次の4つにわけられる。

第一 冊子体文書 (日記類・記録類・文書類)

第二 一紙文書 (書状類・証文類 -現在調査中-)

第三 伝習堂本 (八代の文学稽古所「伝習堂」旧蔵の典籍)

第四 貴重書 (特殊古写本類)

2. 釈文および目録調査の流れ

2. 1 調査方法

松井文庫一紙文書では1点ごとに文書を釈文した上で、詳細な目録を記録する。

2. 2 釈文

文書1点ごとに原稿用紙へ書き起こす作業である。

2. 3 目録

文書1点ごとに標題、内容、寸法等の項目を調査用紙へ記入する作業である。

3. 作業の実際

3. 1 作業を行う古文書勉強会

作業は月2回の古文書勉強会の時間に実施している。

会員の中にはこの2年間で定年をむかえた会員もいるが、引き続き賛助会員として勉強会には参加しており、作業は従来通りのペースで進んでいる。

古文書勉強会の会員名簿は後述を参照のこと。

3. 2 進捗状況

年度別の進捗状況は次のとおり。

平成21年度 63点 (釈文と目録を同時作成)

22年度 110点 (同上)

比較すると平成22年度は大幅増のように見えるが、これは単純な処理点数増ではなく、文書の物理的長さや虫損の度合いが要因であろう。

文書は1点毎に長さが異なっていて、これまで取り組んだ文書のうち最も短い

文書は12cm、最も長い文書は16枚継680cmであった。また平成22年度に取り組んだ文書の中には、開くことも困難な極虫損（ごくちゅうそん）の文書がいくつも含まれていた。これらが上記のような数値の差として現れたものと考えられる。

平成22年度末現在、調査済の文書番号は556番まで来ているが、先程述べた文書の長さの関係で556番よりも若い番号の文書に作業途中が何点もある。進捗状況報告に文書番号はそぐわないと考え、今回は処理済み点数での報告としている。

4. 調査の実際

文書番号 426 を例に紹介、今回は『覚』をとりあげている。
文書と積文は「別紙1」を、目録は「別紙2」を参照のこと。

5. 調査結果の公開に向けて

目録調査が文書番号400番を超えたのを機に、平成21年度からExcel表へ入力を開始した。入力は利用相談担当の方で行い、3月25日現在520点まで入力を完了している。

このExcelデータについて具体的な公開時期や方法等は未だ決まっていないが、松井文庫冊子体文書目録と同様に図書館HPへ掲載し一般への公開も視野に入れている。

6. おわりに

前日も書いたが、松井文庫一紙文書は様々な史料が含まれており古文書勉強会の会員にとってはなかなか手強い史料である。川口客員教授の指導をあおぎながら取り組んでいる。しかも月2回という限られた時間内に積文と目録調査を行っているので未だに遅々としたあゆみは否めないが、少しずつ成果はまとまってきており、調査結果の公開へ向け次のステップへ着手出来たのは、この2年間の成果といえよう。

図書館として今後、(1) 積文と目録の完成 (2) 文書補修対策を目指して予算化も含めた本格的な方針を立てることが待たれているのは、前回と同様である。

謝 辞

古文書勉強会でいつも私たち会員をあたたくご指導くださる川口熊本大学客員教授へ深く感謝を申し上げます。

また、Excel表への入力では利用相談担当（永村さん、水本さん）のお二方のご尽力に深く感謝いたします。

古文書勉強会会員

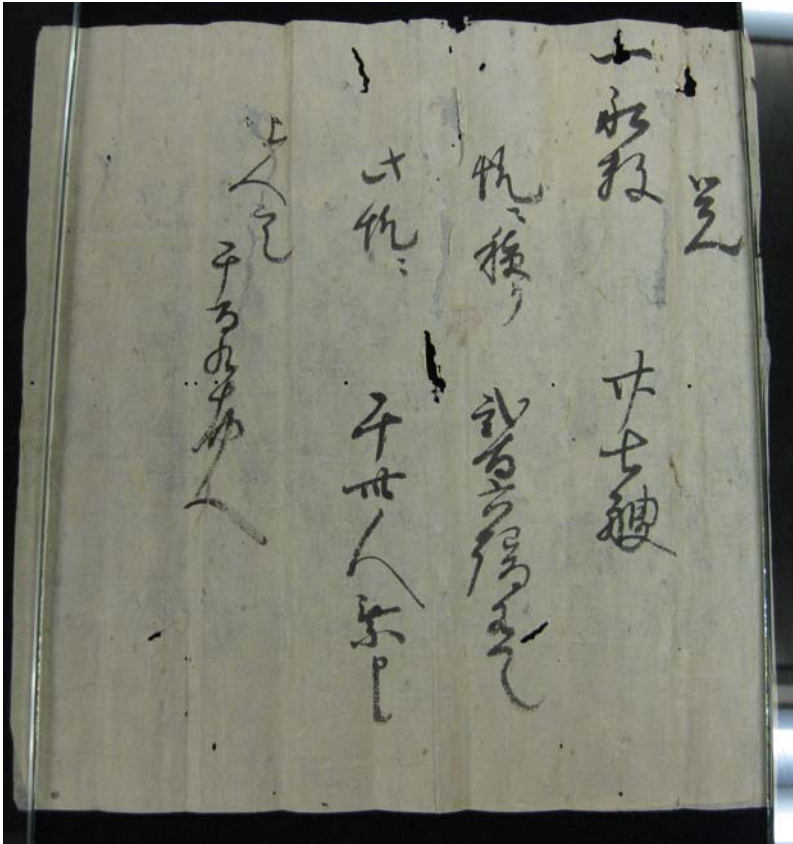
平成21年度：岡崎、永村、樋口、川内野、濱崎、田川、大倉、後藤、岩岡、笠
（北野）、（長船）

22年度：永村、樋口、川内野、濱崎、田川、廣田、柿原、岩岡、笠
（北野）、（岡崎）、（長船）

（ ）は賛助会員を表す

作業の実際

文書番号 426番



積文

一	船数	二十七艘
	帆二積リ	式百六端有之
	此帆二	千三人乗申候
	上人宛	千百九十四人

古文書勉強会の場合では、原稿用紙へ手書きしている。

熊本大学附属図書館古文書調査用紙

文庫名	松井文庫(一紙文書)				
文書番号	426				
標 題	覚				
内 容	海上交通に関する史料 (船数)				
書出し	一 船数 帆二積り				
差出人					
宛 名					
日 付	年 月 日				
数 量	1通				
寸 法	(縦)	25.4 cm			
	(横)	24.5 cm	.	.	.
品質・形状	<input checked="" type="radio"/> 縦紙 縦継紙 折紙 切紙 小切紙 切継紙				
	縦帳 (冊、厚さ . cm、丁数 頁)				
	横帳 (冊、厚さ . cm、丁数 頁)				
備 考	包紙・端裏・貼紙・箱書など 虫損、裏打あり				
記入者	〇〇 〇〇	記入月日	平成 〇〇 年 〇月 〇日		